

平成28年度 財団せせらぎ 助成金使用報告書

所属	社会福祉法人敬友会 高齢者住宅研究所	職名	研究員	助成金額	200,000 円
氏名	竹内みちる 印				

研究や活動等のテーマ（申請書に記入した内容を記入すること。）

在宅高齢者の話し相手ボランティア組織の継続・展開モデル——2つのボランティア組織における試論的考察

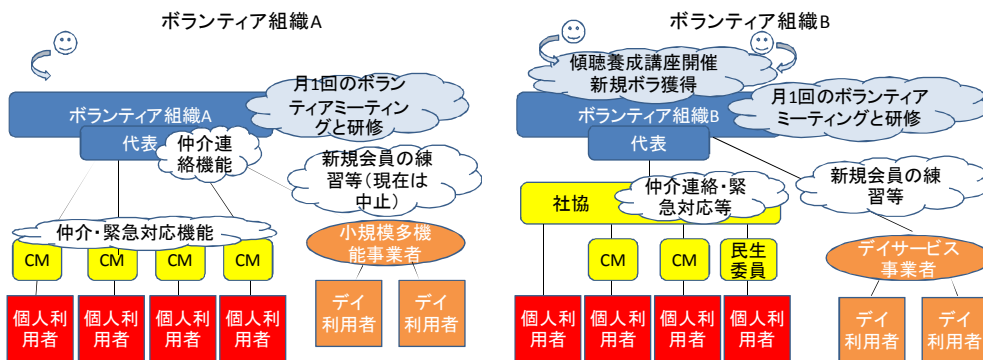
助成金の使用実績の概要（日本語で記入すること。図・グラフ等の記載は必須ではない。）

本研究は、高齢者の支援活動の一つとして重要な話し相手ボランティアの組織的実践の展開を可視化し、話し相手ボランティア組織の継続と展開に資するモデルを提示する。具体的には、在宅での話し相手（在宅で利用者との直接的な関係を持つ活動内容）ボランティア組織（政府や営利企業とは異なった組織原理を持つ）が、どのような組織行動を行い、話し相手ボランティア活動の継続・活動上の問題の対処を組織的にやっているのかを明らかにした。

本研究は、関西圏で在宅での話し相手ボランティアを行っている2つのボランティア組織で、下記の調査を行った。

- ボランティア組織A：2010年4月活動開始（設立は2008年3月）。ボランティア会員30名（2017年5月時点）、個人宅の利用者16名（2017年4月時点）、基本月2回、1回1時間の訪問活動を行う。
調査方法：継続的な参与観察（ボランティアの月1回のミーティングやその他の活動）とインタビュー調査
- ボランティア組織B：2009年11月設立。ボランティア会員30名（2017年3月時点）個人宅の利用者19名（同上）。基本月1回1時間の訪問活動を行う。
調査方法：アンケート調査（組織体制、活動内容、ボランティアミーティング、他組織との連携、活動上の困難への対処について）とインタビュー調査。

結果として、2つの組織の構造を下記の図のようにまとめた。どちらの組織も、仲介・緊急対応機能を担う者（Aはケアマネジャー（CM）、Bは社会福祉協議会（社協））を介在して在宅の個人利用者となっており、活動上の問題の対処の際にも介在者が一定の機能を果たしていた。今後は、ボランティアミーティング時の話し合いの記録を基に、活動上の問題の対処について、更に詳しく検討する予定である。



助成金の使用金額及び使途

- ・旅費交通費（調査交通費等） ¥38,500
 - ・資料・印刷費（図書費） ¥79,528
 - ・インタビューテープおこし委託費 ¥81,972
- 合計 ¥200,000

助成金を使用した成果に関する発表（インターネットに公表されている場合はURLを記載すること。）